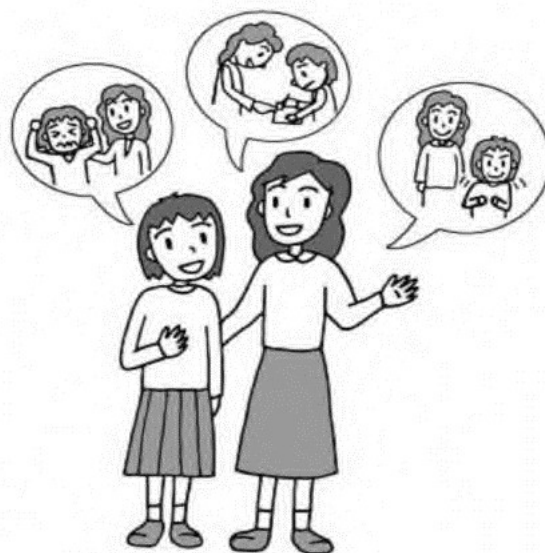


第 2 章

確かな学びを育む ～ちょっと使える支援ツール～

支援にもさまざまなレベルがあります。この時期は特に本人のプライドを大切にするため、さりげない支援が求められます。



1 授業場面での支援

机上の整理ができず、混乱してしまい、内容が理解できない

机上に教科書、ノート、資料集、プリントなど様々なものがあり、必要なものが分からず混乱してしまうのかもしれません。

今、使うものだけを机の上に置くことで、現在の学習内容を確認できます。

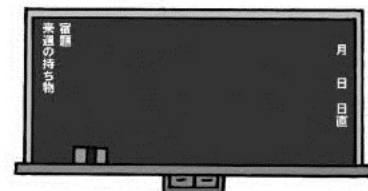
「中学生、高校生であれば、これくらいできてあたりまえ」としないで、ちょっとひと声かけましょう。

聞きながら書いたり、作業しながら説明を聞いたりできない

「指示や説明を聞く」、「板書を写す」、「作業をする」など場面を区切るように心がけましょう。

注意集中が苦手な生徒にとって、書くこと、作業すること、聞くことなど、一つずつ行うことも大変な場合があります。

それぞれに集中できる学習環境を整え十分能力が発揮できるように計画しましょう。



書くことや計算することが苦手でノートがとれない



書くことへの練習を重ねつつ、ワープロや計算機の使い方も学習しましょう。

漢字がスムーズに思い出せないため、板書を写すのに時間がかかる

板書事項が多い時は、写しきるのが困難です。あらかじめ板書事項を書いたプリントを準備し、キーワードだけ写させると本人の負担を軽減することができます。

また、たくさんの板書の中で「ここだけ写す」という指示もOKです。



目と手の協応が苦手で、定規やコンパス等の道具がうまく使えない

定規を押さえる、線を引くという二つの動作が同時にうまく行えないのかもしれませんが。定規が動かないように、裏に滑り止めをつけたり、表に持ち手をつけることにより、線を引くことに、より多くの注意を傾けることができます。



コンパスの操作も同じです。学童用のコンパスはぐらつきやすくなることもあります。本人のコントロールの弱さが、カバーできるように、ねじをしっかりと締め直したり、機能性の高いコンパスを準備したりする等、道具で調整してみても良いでしょう。

使いやすい道具の工夫・準備も大切な支援の一つです。

着目点がわからず、図形の課題に取り組めない

視覚認知に問題を抱えているのかもしれませんが。そうすると図と地の区別ができず、必要な情報を選ぶことができません。図の中の着目すべき線に色をつけて示すことで、学習を進めることができます。

このようなケースの場合、例えば美術科などでレタリング練習の補助線は、生徒にとって補助ではなく、かえって見にくくなることもあります。

図形や地図、グラフは拡大すればわかりやすくなることもあります。

本人にとってのわかりやすい方法を生徒本人と確認しながら、支援方法を具体化していきましょう。

2 生徒の内面をさぐる

思春期には、見た目には分かりにくい悩みがあります。困っているようには見えなくても思いのほか本人が困っていることもあります。また、困っていることに本人が気付いていないこともあります。まずは内面をさぐることから始め、手立てを考えます。



■ 内面をさぐるためのアンケート例

4月に生徒自身に記入させて、詳しく検討し、それによって対応を考える。

ア あなたの得意・不得意な教科は何か教えてください。それぞれあてはまる場所に○印をつけましょう。

教科	国語			数学			社会	理科	英語			体育
	漢字	読解	作文	計算	文章題	図形			会話	文法	読解	
得意												
普通												
不得意												

イ あなたの最近の様子について教えてください。それぞれあてはまる場所に○印をつけましょう。

	日に何度 かある	週に何度 かある	月に何度 かある	ほとんど ない	起りやすい時間帯 起りやすい場面
よく眠れない					
イライラする					
体がこわばる					
家に帰ってもゆううつだ					
物事が面倒くさく感じる					
とても疲れている					
頭痛がする					
下痢や腹痛をおこす					
肩や首筋がこる					
気分が沈んで意欲がわかない					

・
・
・

大人のコミュニケーションはうまくとれるのに、友達同士の場合は苦手だと感じていることなど、表面上の現象以外にも分かることがあります。

質問事項を研究しながら、生徒の内面を探ってみましょう。

■ 保護者から情報を得る

《信頼関係を築く》

保護者はその子の専門家です。今までの情報を聞き、信頼関係を築いて一緒に支援の方法を考えましょう。家庭での様子や話は内面を探るときの大切な情報です。小さなサインも見逃さず、聞き取りましょう。

《医療機関へは慎重に紹介する》

保護者にそのニーズがあるか、学校と十分連携が取れているかなどしっかりと情報を得てから、紹介しましょう。特に医師の診断を最優先させるより、学校の中で話し合いを十分に重ねましょう。

★J高等学校：進路指導の一環として1年生から懇談をていねいに行っている。

■ 生徒の様子を多面的にみる

《生徒の様子を共有する》

学年会議などで話し合い確認しましょう。

気付いた点を記録しましょう。

《簡単なスクリーニングをする》

奈良県立教育研究所発行の「新しい学びの創造」～児童編～P14や、文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査」の内容、「LDI（エル・ディー・アイ）」ーLD判断のための調査票ー（小学校1年～6年＊中学生は準用）著者 上野一彦他 日本文化科学社などを参考にしながら、各学校に応じた簡単なスクリーニングを行い、客観的な視点から得た情報を収集してみましょう。

■ 対応を考える

《PDCAサイクルで評価する》

Plan（計画）ーDo（実行）ーCheck（評価）ーAction（改善）のサイクルで、ケース会議を開いて対応を考え、その一つ一つが効果的だったか、検討する。このようにして行う指導計画は必ず他の生徒にも応用しましょう。

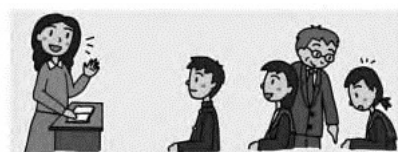
《引継ぎをていねいに》

今までの情報（小・中学校）でうまくいった対応について、特別支援教育コーディネーターとていねいに情報を交換しましょう。

《学習上の困難さを最優先課題とする》

行動上に問題がある場合も、学習上の問題と切り離すことなく考えましょう。

授業の中でどんなことに困っているのか、どんなことが分からなくなっているのかについてしっかり対応しましょう。



3 「見えにくさ」を理解する

教材を拡大して試す

次の文章を読み □ にあてはまる最も適切な用語を入れよ。

ニューロンも1つの細胞であり、細胞膜で包まれている。この膜の外側には、□ イオンが多く、□ 内側には、□ イオンが多い。これは細胞膜に□ ポンプと呼ばれるイオンの□ の仕組みがあって、□ を外へくみだし、□ を細胞内へ取りこんでいるからである。その結果、静止状態のニューロンでは、細胞膜の外側は□ に、内側は□ に帯電していて、膜の内外で電位差が生じている。この膜内外の電位差を□ と言う。ニューロンは、刺激を受けると、その部位の細胞膜の透過性が変化し、□ が急激に膜内に流入する。このため、膜内外の電位が瞬間的に逆転し、内側が□ に、外側が□ になり、やがてもとの状態にもどる。この一連の電位の変化を□ といい、このような電位変化を発生することを興奮という。

点数が取れないことと、小さい文字が読み取りにくいことの関係は、本人も分かっていないことが多いので、A君のためにだけでなく、全員に拡大してみるとよいでしょう。

拡大

次の文章を読み □ にあてはまる最も適切な用語を入れよ。

ニューロンも1つの細胞であり、細胞膜で包まれている。この膜の外側には、□ イオンが多く、□ 内側には、□ イオンが多い。これは細胞膜に□ ポンプと呼ばれるイオンの□ の仕組みがあって、□ を外へくみだし、□ を細胞内へ取りこんでいるからである。その結果、静止状態のニューロンでは、細胞膜の外側は□ に、内側は□ に帯電していて、膜の内外で電位差が生じている。この膜内外の電位差を□ と言う。ニューロンは、刺激を受けると、その部位の細胞膜の透過性が変化し、□ が急激に膜内に流入する。このため、膜内外の電位が瞬間的に逆転し、内側が□ に、外側が□ になり、やがてもとの状態にもどる。この一連の電位の変化を□ といい、このような電位変化を発生することを興奮という。

見えにくさは、視力だけではなく、眼球の動きの不器用さによることもあります。行間を広げることにより、もっと見やすい文章になるでしょう。

4 社会性を育てる

場面に応じた言葉の使い方、コミュニケーションの取り方、ストレスの解消法など、教科の学習以外に時間を設けて、取り組んでいる学校があります。

■ SST (ソーシャルスキルトレーニング)

SST (ソーシャルスキルトレーニング) の指導とはソーシャルスキル (人とうまくかかわっていくため方法) を具体的に「やり方」や「コツ」として教えることで、生徒たちの生活をより豊かになるように支援することです。

生徒の中には、ソーシャルスキルが身に付いていなかったり、知らなかったりするために友だち関係や集団生活で困っている場合があります。

トレーニングを計画する場合は、本人を取り巻く環境、情緒面、生徒の障害特性にも考慮が必要です。また、指導技法としては、「教示」「モデリング」「リハーサル」「フィードバック」「一般化」等がありますが、1つの課題についてこの5つの指導技法の組み合わせで行います。



☆ <SSTのプログラム> を対象生徒を中心に取り組むK中学校の例

対象の生徒

授業中、集中できなかったり、板書を写すのが苦手だったり、先生の説明が聞き取りにくかったりする生徒

目的

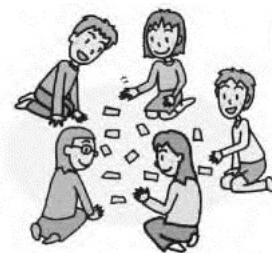
友人や人間関係においてうまくいかない、といった悩みをもつ生徒

内容

少人数の設定場面で、ゲームや運動をとおして、ちょっとした「やり方」や「コツ」をつかむことにより、実際の生活場面で生きて働く力をつける。

1年生から3年生までの10人以内を対象に図書室で展開している。

- ① <始まりの会>
「今日の気分は？」の1分間スピーチなど
- ② <ウォーミングアップ>
「トランプ遊び」「言葉あつめゲーム」など
- ③ <SSTプログラム>
「わかりやすく伝えよう」
「元気の出る聞き方」
「協力ジェスチャー」
- ④ <お楽しみ活動・運動ゲーム>
「言葉集めゲーム」
「友だち集めゲーム」
- ⑤ <終わりの会>
「今日の反省」



時期

毎週木曜日、放課後17時まで

5 周囲の生徒への理解を促す


■ 人権教育講演会の実施

人権教育講演会として、「特別支援教育」について取りあげている学校があります。教員の理解を深めることはもちろん、生徒たちに様々な障害について、正しい認識と深い理解をもって日々の生活を送ってほしいと願って実施しています。

これをきっかけに、自己認識する生徒もいたようです。

■ 図書室での実践

お知らせプリント



☆《ココロの架け橋》
コーナーの本について☆

本をひらく 自分をひらく
～大きなあれ
あなたの優しさ あなたの勇気～

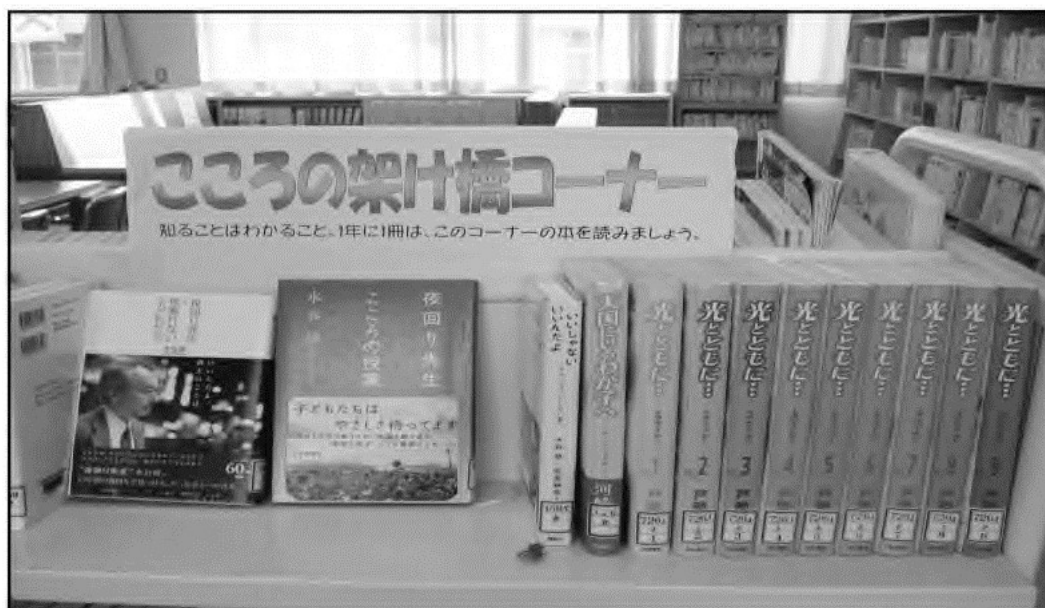
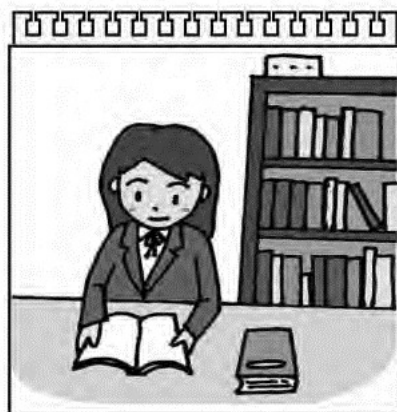
※このたび図書室に入ってすぐ左の場所に、「ココロの架け橋」という本のコーナーができました。

※このコーナーには、心やからだの働きについての本や、人の生きりにあつた本、気持ちの落ちる本、そして今年2月の中村美知先生の講演と関係の深い本など、全部で60冊あまりの本が置かれています。

※絵本もありますし、マンガもあります。この本もみなさんと関係のある本ばかりです。

※この学年が終わるまでに、ぜひこのコーナーの本をひとり1冊以上読むように心がけて下さい。
この中にあるどれかの本が、みなさんの心に温かい何かを届けてくれることを願っています。

図書室にコーナーを設けて、「障害」について考えるための本を置き、一人一冊必ず読むよう提案しています。



■ 中学校（支援シートまたは引継ぎ資料）

引継ぎのための資料

氏名		年 組	担任		副担任		学年Co.	
障 害 名 等	ADHD							
基本的な困難	・ 注意力・集中力				・ 手先の器用さ			

支援の目的

・ 学校生活がスムーズに送れる ・ 支援が必要な時に自分から支援を求める力をつける

〈学年で行った支援〉

	事 柄	支 援 方 法
生 活 面	校時変更、委員会・係活動の連絡	学級の前の黒板の横のほうに書いておく。本人には様子を見て、直前の声かけをすることも加える。
学 習 面	説 明	聴覚だけで、多くの内容を捉えることが難しい。理科の実験や作業学習は授業者が黒板に手順を示した上で、その都度全体に向けて説明する。また、支援員が様子を見て、必要ならば説明をしたり、要点を簡条書きにしたりして見せる。
	図・グラフ等	グラフや表・レタリング字典など複数の線が重なる場合や地図のような狭い空間に多くの情報が詰まったものは見分けにくい。必要に応じ拡大したり、色をつけたりする。
対 人 関 係	人に話しかける声が大きすぎる	自覚できないので、唇の前に人差し指を立て声が大きすぎることを伝えると適当な大きさに直すことができる。

部活動（××部）

保護者の希望により、1学期に顧問が保護者と懇談を行った。

連携

××××病院 担任とコーディネーターが主治医と面談

本人の気持ちの伝え方

担任を中心に教科担当・顧問・支援員・友だち等一応誰に対しても自分の気持ちが伝えられるようになってきている。

その他

服用薬 ××××

保護者の考え・願い

××××

担任の意見

××××

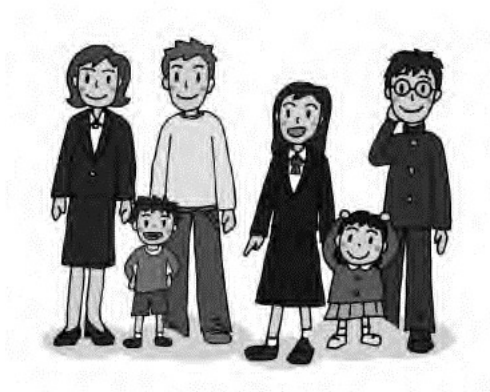
学習成績一覧表・定期テスト支援内容一覧表も付けて資料とします。

第 3 章

特別支援教育 エール集

「大人の入り口に立つあなたへ」

障害者の雇用を支援してきてくださった方々から、励ましの言葉をいただきました。



職場の中で「これだけは」という打ち込める仕事を見つけよう

なら障害者就業

生活支援センター コンパス

副代表 小 島 秀 一

いろいろなことを求められると失敗しますが、一つのことには打ち込める仕事ではうまくいっていきける人がいます。「これだけをすればいい」という条件の中で対応できるからだと思います。

それはそれで、自分に合った大切な仕事の選び方です。中小企業よりも大手企業が、派遣社員よりも正社員が、という考えではなく、自分の特性をよく考えてほしいと思います。

「自分のいいところ」を聞いても、なかなか言えない人が多いです。「自分には何ができるのか」「どういういいところがあるのか」を言うことができるようになっておくことは大切です。

勉強ができればいいということで、家の手伝いなどいろいろな日常的な経験をしないまま大きくなり、企業でいちばん求められる「基本的な社会性」が大きく欠けたまま大きくなっているケースがあります。

職場で求められるコミュニケーションの力や社会性は、障害のある人たちには苦手なときがあります。しかし、身近な場面で少しずつ身に付けてほしい力だと考えます。

得意・特性を活かした仕事で生き生きと働こう

奈良県立高等技術専門校

専門指導官 住 本 友 成

就職する場合、受け入れる会社の「障害」についての理解が必要になります。

仕事を任せるにしても、その人の能力や特性を見極めて、それを上手に活かし、課題に向かわせてほしいと願っています。

人とのやり取りやつきあいの苦手だった生徒が、自分の得意なパソコンの力で雇用に結びついたというケースがあります。それは、従業員のほとんどがパートで、仕事の時間もさまざまな企業で、従業員の労働時間や給料の計算などの作業をミスなく行っているケースです。そのパソコンは事務機の並びから少し外れた一角の、周りややや隔てられたスペースに置かれていました。言葉でのやり取りが求められなかったのも、とても集中できました。そこで予想以上の力が発揮できました。

人間関係は今でも取りにくいのですが、与えられた仕事は十分にこなし、生き生きと働いています。

雇う方も、その人の特性を見出すことが重要なのですが、みなさんも自分自身の特性、得意・不得意を見つけ、それを活かせる人であってほしいと願います。

仕事に就くうえで、「挨拶」など社会性が大切です

なら東和就業

生活支援センター たいよう

就業相談員 長谷川 善 昭

学校で国語や数学の勉強ができるにこしたことはありませんが、「仕事に就く」という点で、大切なことが二つあると考えます。

一つめは、まず働こうとする仕事への意欲が、あなた自身にあるかどうかということです。雇おうとする人は、まず、その人の仕事への意欲を確認します。

二つめは、最低限の社会性が身に付いているかどうかです。社会性というのは、分かりやすく言えば、挨拶ができるかということです。これはとても大切なことなのです。休暇を取るときに自分で連絡できるということも大切なことです。このようなことは、学校を卒業するまでに身に付けておいてほしいことです。

学校や家庭に守られている間に、卒業して働くときに困らないよう、自分のことは自分でできるようになっておきたいですね。

仕事の現場では、スピードより正確さが大切です

近畿編針株式会社

顧問 井 上 善 夫

働くためには、人とのコミュニケーションが何より大切だと考えています。勉強ができる・できないよりも、働く者同士の心と心が、いかに通じ合うかが大切なのです。

作業については、やはり中途半端ではいけないのです。遅くてもいいから正確であることが大切です。訓練などでは作業の終了後に手直しすることもあります。そういうことは企業ではできません。

いろんなことがやりこなせなくても、一つの仕事に打ち込める自分であることは大切なことです。



参考文献

佐藤 暁著	自閉症児の困り感に寄り添う支援	学研2007
佐藤幹夫著	裁かれた罪裁けなかった「こころ」17歳の自閉症裁判	岩波書店2007
井上雅彦・井澤信三著	自閉症支援はじめて担任する先生と親のための特別支援教育	明治図書2007
高橋あつ子著	LD、ADHDの子どもへのアセスメント&サポートガイド	ほんの森出版2007
海老原紀奈子著・服巻智子編著	自閉症スペクトラム 青年期・成人期のサクセスガイド	クリエイツかもがわ2006
藤家寛子著	自閉っ子は、早期診断がお好き	花風社2007
梅永雄二著	こんなサポートがあれば！2 LD、ADHD、アスペルガー症候群、高機能自閉症の人たち自身の声	エンパワメント研究所2007
ダニエル・タメット著	ぼくには数字が風景に見える	講談社2007
杉山登志郎著	子ども虐待という第四の発達障害	学研2007
月森久江著	教室でできる特別支援教育のアイデア 中学校編	図書文化2006
品川裕香著	心からのごめんなさいへ 一人ひとりの個性に合わせた教育を導入した少年院の挑戦	中央法規2005
中邑賢龍著	発達障害の子どものユニークさを伸ばすテクノロジー	中央法規2007
秋山千枝子・堀口寿広監修	スクールカウンセリングマニュアル	日本小児医事出版社2007
阿部利彦著	発達障がいを持つ子の「いいところ」応援計画	ぶどう社2006

県立教育研究所の冊子は

<http://www.nara-c.ed.jp/>の教育研究所ホームページからダウンロードできます

★ 特別な教育的支援を必要としている子どもたち

一理解・啓発ガイドブッカー

LD（学習障害）	2002
ADHD（注意欠陥多動性障害）	2003
高機能自閉症（アスペルガー症候群）	2004

★ CD-ROM今日から使えるなら特別支援教育ガイド 2005

★ 新しい学びの創造

特別支援教育ガイド1 ～幼児編～	2006
特別支援教育ガイド2 ～児童編～	2007